

目 次

こども福祉科 保育士・幼稚園教諭コース 1年

A 厚生労働省指定科目

*…豊岡短期大学通信授業科目。豊岡短期大学通信教育部シラバス参照のこと。

◎…豊岡短期大学認定科目。

教養科目

* 憲法	町 田 幸 作	
心理学	渡 辺 舞	3
* 情報リテラシーと処理技術	忽滑谷夕鶴舞	
* 英語コミュニケーションⅠ	澤 田 麻 理	
* 健康科学	安 田 謙 一	
* スポーツ（実技）	安 田 謙 一	

専門的科目

◎ 保育原理	藤 田 留 美	4
* 教育原理	谷 口 知 弘	
◎ こども家庭福祉	長谷 あゆみ	5
◎ 社会福祉論	池 田 ひろみ	6
◎ 社会的養護Ⅰ	大 場 信 一	7
* 教職論	明 田 川 知 美	
◎ 発達心理学	渡 辺 舞	8
◎ こどもの発達と家庭支援	渡 辺 舞	9
* 教育課程論	高 橋 裕	
* 保育内容総論	早 坂 聡 子	
* こどもの指導法「人間関係」	武 田 克 江	
* こどもの指導法「言葉」	久 保 田 知 恵 子	
* こどもの指導法「リズム表現Ⅰ」	村 田 扶 葉	
* こどもの指導法「造形表現」	矢 元 政 行	
* こどもの指導法「音楽表現Ⅰ」	折 笠 美 穂	
	田 中 智 子	
	房 田 里 枝	
◎ こどもと造形	矢 元 政 行	10
* 表現とこどもの運動	廣 田 邦 生	
◎ 乳幼児保育Ⅰ	谷 内 智 美	11
障害児保育Ⅰ	千 葉 桂 子	12
保育実習Ⅰ（福祉施設）	藤 田 留 美	13
保育実習Ⅰ（保育所）	谷 内 智 美	14
保育実習対策Ⅰ・保育実習指導Ⅰ（福祉施設）	藤 田 留 美	15
保育実習対策Ⅰ・保育実習指導Ⅰ（保育所）	谷 内 智 美	16

* 人間関係論	藤田留美	
* 教育心理学	渡辺舞	
* 造形表現論	矢元政行	
こどもとリズム表現Ⅱ	房田里枝	…………… 17
* 教育方法論	岩谷樹	
* 教育実習事前指導	井口美和	
* 音楽表現論	田中智子	
保育制作Ⅰ	谷内智美	…………… 18
教育実習対策Ⅰ	井口美和	…………… 19
こどもと音楽表現Ⅴ	折笠美穂	…………… 20
	田中智子	
手話Ⅰ	札幌聴覚障害者協会	…………… 21
	(河村明子)	

A 本校独自科目

応対論Ⅰ	三品あおい	…………… 22
国語総合演習Ⅰ	浦田日出雄	…………… 23
就職ガイダンスⅠ	小野千晴	…………… 24

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
心理学	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
渡辺 舞	-	
科目のねらい		
心理学の基本的理論として、「心理学の対象領域と研究法」「感覚・知覚」「学習・記憶・思考」の3つの領域について理解を深めていきます。		
到達目標		
1. 心理学の研究方法を学び、説明できるようになる。 2. 人のこころの基本的なしくみについて学び、説明できるようになる。		
受講の心構え		
プリントはノート代わりの書き込み式です。各自ファイル等を準備してください。 プリントは最終授業の時に提出してもらい、評価の対象とします。		
成績評価基準		
試験評価 80%・プリント提出 10%・授業への参加度 10%		
授業計画表		
1. オリエンテーション（授業のスケジュール・評価方法）／心理学とはなにか？ 2. 心理学の領域と研究方法／心理学を理解する 3. 感覚・知覚の心理学／見ること・聞くことのしくみを理解する 4. 学習・思考の心理学 1／動物実験から行動のしくみを理解する 5. 学習・思考の心理学 2／問題解決から思考のしくみを理解する 6. 記憶の心理学 1／記憶実験から記憶のしくみを理解する 7. 記憶の心理学 2／おぼえること・忘れることのしくみを理解する 8. 「心理学」のまとめ		
使用テキスト・参考文献		
稲田達也・鈴木由美・大塚貴之・大西清文『教育心理学』豊岡短期大学 その他、必要に応じて資料を配付する。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
保育原理	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
藤田 留美	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所保育指針の内容を理解し、基本を踏まえた保育の展開や保育の質と専門性の向上について学ぶ。 ・ 保育の歴史的背景から、現状と課題を考察し、多様な保育ニーズについて理解を深める 		
到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の意義及び目的について理解する。 ・ 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 ・ 保育の思想と歴史的変遷について理解する。 ・ 保育の現状と課題について理解する 		
受講の心構え		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の基礎・基本となる授業です。主体的な学びになることを期待しています。 ・ プリントを配付します。ポケットファイル(40ポケット程度)又はフラットファイルを用意してください。 		
成績評価基準		
科目評価試験(80%)と授業への取り組み姿勢・提出物(20%)で総合的に評価する		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション／保育所保育に関する基本的事項 2. 保育の目標と方法①～生きる力と未来をつくり出す保育 3. 保育の目標と方法②～保育の環境 4. 保育の思想と歴史的変遷① 5. 保育の思想と歴史的変遷② 6. 子どもの発達～発達の特性 7. 保育所保育の特性～養護と教育 8. 幼児教育を行う施設としての考え 9. 保育の内容①～乳幼児の保育に関わるねらい及び内容 10. 保育の内容②～1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容 11. 保育の内容③～3歳以上児の保育に関するねらい及び内容 12. 保育の計画及び評価 13. 子どもの健康と安全 14. 保育者の専門性と倫理観 15. 授業のまとめ 		
使用テキスト・参考文献		
<p>「内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』フレーベル館」 「『保育原理』豊岡短期大学」 その他、毎時間プリントを配付します</p>		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
こども家庭福祉	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
長谷 あゆみ	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
現代社会における、こどもの家庭福祉を学びます。 「社会で子どもを育てる」という観点に立ち、こどもの福祉の現状と課題・実際の援助やケアのあり方を学び、保育の重要性を理解していきます。		
到達目標		
1, 権利を持つ「主体としての子ども」観の構築と子ども理解を深める。 2, 子どもを取り巻くさまざまな課題と現状を学ぶ 3, 実際の援助・社会資源・法制度などを学び、専門性につなげる。		
受講の心構え		
子どもの福祉を考える時に欠かせない内容となっています。子ども理解とケア・実際の援助に活かせるように積極的に学ぶ姿勢を期待します。 配布されるレジメ・資料のファイリングを必ずして下さい。		
成績評価基準		
レポート・筆記試験（70%） 授業の取り組みや態度（30%）		
授業計画表		
1, オリエンテーション／自己紹介／家庭福祉の意義 2, 子どもの人権と権利擁護／子ども観の歴史の変遷 3, 児童福祉六法 4, 子どもの福祉を図るための社会資源 ①児童相談所 5, 子どもの福祉を図るための社会資源 ②子どもの福祉施設 6, 子どもの福祉を図るための社会資源 ③児童養護施設 7, 保育士の役割／保護者と良い関係を作るために・保護者理解 8, 保育士の役割／子どもとの関係作り・子どもへの対応とケア・子ども理解 9, 子どもを取り巻くさまざまな困難ーハイリスク要因・子どもの虐待・貧困など 10, 前半のまとめ 11, 事例検討から学ぶ他機関との連携／さまざまな専門職 自己理解を深める 12, 保育におけるソーシャルワーク／アンガーコントロール 13, これまでの復習／児童虐待防止法・社会的養護のこれからの展望 14, セルフケア／対人援助職についての総括 15, まとめ		
使用テキスト・参考文献		
「豊岡短大 豊岡短期大学指定テキスト『こども家庭福祉』（豊岡短大） その他、随時授業時に資料を配付。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
社会福祉論	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
池田 ひろみ	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
日本の社会福祉について全体像を理解する。 社会福祉の理念と基本的知識を理解する。 自分達の身近な問題・課題を、社会福祉の視点で捉え考える習慣を身につける。		
到達目標		
社会福祉の基本的知識を理解し、自分自身の仕事や生活に役立てる。 現代日本の子どもやその親・家族を取り巻く状況について理解し、客観的に問題・課題を判断する力を養う。 社会福祉の専門用語・法律・制度を正しく理解し、自分の仕事に役立てる習慣を身につける。		
受講の心構え		
配付資料は、ファイリングし全授業に持参して活用すること。 自分の意見を的確に言葉で表現する努力をするとともに、他者へ誤解なく伝える努力をすること。 他者の意見を真剣に捉え、自分の意見に反映させる習慣を身につけること。		
成績評価基準		
授業内の課題 30%、授業内の発言内容・態度 30%、筆記試験 40%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1. 自己紹介とオリエンテーション 「福祉とは」2. 社会福祉の基礎知識：「基本的人権」の尊重、「生存権」の保障3. 日本国憲法と社会福祉の法律・制度 その14. 日本国憲法と社会福祉の法律・制度 その25. 児童福祉の法律・制度・サービス6. 現代日本の子どもとその家族を取り巻く状況 「子ども家庭福祉」の考え方7. 子どもの貧困の実態、その解決に向けた方策8. ひとり親家庭の現状と子育て支援、法律と制度9. 「児童虐待」防止と早期発見・早期対応のための方策10. 子どもの権利と権利擁護11. 障害児・者の現状と障害福祉の法律・制度・サービス12. 社会福祉の専門職の役割13. 相談援助技術：「傾聴」の大切さ 特に保育者として母親への傾聴14. 専門職としての子どもと親・家族への関わり方15. まとめ 自分にとっての社会福祉を考える 専門職として仕事をする上で、社会福祉の視点をもつことの大切さを理解する		
使用テキスト・参考文献		
『社会福祉論』豊岡短期大学 授業中に、適宜新聞記事等を配付します		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
社会的養護 I	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
大場 信一	授業内容にかかわる実務に社会福祉士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
期待される保育者になるために必要な社会的養護の基礎知識、専門性、価値観を身につける。		
到達目標		
社会的養護にかかわる歴史的背景を知り、現状をみつめ、課題を理解する。		
受講の心構え		
いま、何が直面している課題なのか、問題意識をもつ。		
成績評価基準		
中間ふりかえりテスト・期末テスト100% 出席状況・授業態度は考慮		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1 オリエンテーション2 子ども・家庭を取り巻く環境3 社会的養護とは、社会的養育とは4 社会的養護の理念5 社会的養護の歴史の変遷（日本・欧米）6 子どもの人権7 社会的養護の基本原則8 社会的養護にかかわる法体系9 社会的養護にかかわるシステムと制度10 社会的養護にかかわる専門職と専門機関11 家庭養護、家庭的養護、施設養護12 社会的養護の対象13 被措置児童等の虐待防止14 社会的養護が担う地域福祉15 まとめ		
使用テキスト・参考文献		
豊岡短期大学指定テキスト		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
発達心理学	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
渡辺 舞	-	
科目のねらい		
各発達段階での特徴的なところとからだの発達に注目していきます。 「新生児期・乳児期」「幼児期」「児童期」「青年期」の発達段階別に理解を深めていきます。		
到達目標		
1；生涯発達の観点から人のところとからだの発達を理解し、説明できるようになる。 2；乳児期と幼児期の特徴について重点的に学び、保育現場で活用できるようになる。		
受講の心構え		
プリントはノート代わりの書き込み式です。各自ファイル等を準備してください。 プリントは最終授業の時に提出してもらい、評価の対象とします。		
成績評価基準		
試験評価 80%・プリント提出 10%・授業への参加度 10%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1. オリエンテーション（授業のスケジュール・評価方法）／発達の考え方の基本2. 生涯発達心理学 1／受精から死までを「発達」と捉える考え方の理解3. 生涯発達心理学 2／生涯発達の考え方とライフステージの理解4. 新生児から乳児期の発達心理 1／赤ちゃんの見ている世界の理解5. 新生児から乳児期の発達心理 2／赤ちゃんの形態的・機能的発達6. 乳児期から幼児期の発達心理 1／ことばの発達7. 乳児期から幼児期の発達心理 2／愛着と自己意識の発達8. 乳児期から幼児期の発達心理 3／情緒と愛着の発達9. 乳児期から幼児期の発達心理 4／思考と遊びの発達10. 児童期の発達心理 1／家庭から学校への環境移行11. 児童期の発達心理 2／仲間関係の発達12. 青年期の発達心理 1／思春期の心理的特徴13. 青年期の発達心理 2／アイデンティティと青年の自立14. 青年期から成人期への移行／身体的・心理的变化の理解15. 発達心理学のまとめ		
使用テキスト・参考文献		
渡辺隼人・岸靖亮・渡邊舞『発達心理学』豊岡短期大学 その他、必要に応じて資料を配付する。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
こどもの発達と家庭支援	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
渡辺 舞	-	
科目のねらい		
「こどもの発達課題」「親子関係と家族関係の発達」「こどもの心の健康」「家庭支援の方法」の4つの領域について、こどもと家庭および子育て支援に関する内容を包括的に学んでいきます。		
到達目標		
<ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの発達について学び、保育現場で活用できるようになる。 2. 家庭支援の重要性を学び、保育現場で活用できるようになる。 		
受講の心構え		
<p>プリントはノート代わりの書き込み式です。各自ファイル等を準備してください。 プリントは最終授業の時に提出してもらい、評価の対象とします。</p>		
成績評価基準		
試験評価 80%・プリント提出 10%・授業への参加度 10%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（授業のスケジュール・評価方法）／生涯発達を理解する 2. 乳児期から幼児期の発達の特徴／基本的生活習慣の習得を理解する 3. 児童期の発達の特徴／こどもの人間関係を理解する 4. 青年期から成人期の発達の特徴／親としての発達を理解する 5. 成人期から老年期の発達の特徴／こどもの自立と人生の締めくくりを理解する 6. 家族と家庭の意義と役割／家族の範囲と家庭の役割を考える 7. 子育て家庭を取り巻く現状 1／社会状況と家庭の変化を理解する 8. 子育て家庭を取り巻く現状 2／社会状況の変化を踏まえて支援を考える 9. 特別な配慮を必要とする家庭の理解と支援 1／ひとり親家庭 10. 特別な配慮を必要とする家庭の理解と支援 2／児童虐待 11. 特別な配慮を必要とする家庭の理解と支援 3／DV 家庭への支援 12. こどもの個性の理解と支援 1／パーソナリティの捉え方と測定の基本を理解する 13. こどもの個性の理解と支援 2／発達の測定と支援を理解する 14. 保育カウンセリング／子育て相談場面でのコミュニケーションを理解する 15. 「こどもの発達と家庭支援」のまとめ 		
使用テキスト・参考文献		
室谷雅美『こどもの発達と家庭支援』豊岡短期大学 その他、必要に応じて資料を配付する。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
こどもと造形	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
矢元 政行	-	
科目のねらい		
<p>幼児造形の指導・援助者として造形の基本的な理論を理解する。造形活動の展開と指導・援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術を習得する。えがく領域、つくる領域、造形あそびの領域の表現方法についての知識や技術について体験的に学習する。</p>		
到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ・幼児造形教育の指導・援助者として必要となる造形の基礎的な知識及び技能について理解できる。 ・えがく領域、つくる領域、造形あそびの領域の製作を通して、基礎的な表現技法について習得できる。 ・教材研究及び作品発表を行うことで思考力や表現力を高める。 		
受講の心構え		
<p>授業では造形活動の楽しさを感じてください。配付資料はファイリングしてください。演習後は授業の取り組み、教材の感想等を提出してもらいます。</p>		
成績評価基準		
<p>製作課題60%、プリント提出20% 出席点授業姿勢20%</p>		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none"> 1 幼児造形教育の重要性と研究の視点について 2 絵画の基本的な技法及び描法（草花をかく）について 3 えがく領域における製作（各種表現技法を用いた製作） 4 立体造形における技法と活用について（小麦粉粘土の製作） 5 つくる領域における製作（ポップアップカードの製作） 6 造形あそびにおける技法と活用について（素材・廃材を活用した造形あそび） 7 造形あそび（グループ）の領域における製作（新聞紙を使って服をつくる） 8 まとめ 		
使用テキスト・参考文献		
<p>豊岡短大『造形表現論』（配本テキスト） 鶴留見裕子『おりがみよくばり百科』ひかりのくに」 毎回、授業開始時に資料を配付</p>		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
乳幼児保育 I	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
谷内 智美	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
子どもがこれからの未来を生きていくうえで、保育士は人としての基礎作りとなる重要な時期に関わることとなります。「乳幼児」おもに3歳未満児の発育・発達を知り、乳幼児保育における保育者の役割について理解を深めます。		
到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ・発達、発育を踏まえた保育の内容と運営体制について理解し計画を立てる。 ・沐浴人形を使用した実技を通し、実際のケアを身につける。 ・多様な保育現場における乳幼児保育の現状と課題を把握する。 ・乳幼児保育における職員間の連携・協同の意義を理解し自身の課題を明確にする。 		
受講の心構え		
2年次も引き続き学ぶ教科となります。配付プリントは2年間継続したファイリングを求めます。日々の関わり大切さを一緒に考えていきましょう。		
成績評価基準		
授業への取り組み、提出物、授業のまとめで総合的に評価します。意欲的な授業への参加を期待します。		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・乳幼児保育の意義と役割 2 乳児保育の歴史の変換 3 乳幼児保育における養護と教育 4 保育所における乳幼児保育①「0歳児クラスの保育と実際の関わり」 5 保育所における乳幼児保育②「0歳児クラスの保育と実際の関わり」 6 乳児ケアの実際①「抱っこ」「おんぶ」 7 乳児ケアの実際②「排泄」 8 保育所における乳幼児保育③「1歳以上3歳未満児クラスの保育と実際の関わり」 9 3歳未満児の発達を踏まえた遊びと環境① 10 3歳未満児の発達を踏まえた遊びと環境② 11 3歳未満児の発達を踏まえた遊びと環境③ 12 家庭的保育・小規模保育における乳幼児保育の現状と課題 13 乳幼児保育における保育者の業務と役割 14 乳幼児保育における職員間の業務と役割 15 授業のまとめ 		
使用テキスト・参考文献		
<ul style="list-style-type: none"> ・授業時にプリントを配付します ・寺田清美・大方美香・塩谷香『乳児保育 I・II 新・基本保育シリーズ⑮』中央法規 ・フレーベル館『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』 ・『乳幼児保育 I』（豊岡短期大学） 		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
障害児保育 I	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
千葉 桂子	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
障がいについて知る。障がい児を取り巻く現状を知る。障がい児保育における保育士の役割を理解する。		
到達目標		
障がいとは何かを知る。障がい児を取り巻く状況や環境について理解し、支援現場における保育士の役割について理解する。		
受講の心構え		
現在は保育の現場に障がいのある児がいることが一般的です。現場での状況を伝えるとともに、実技も取り入れ学んでもらいます。毎回配付する資料は必ずA4ファイルに閉じてください。確認のため、ミニレポートを毎回提出してもらいます。		
成績評価基準		
まとめのテスト 60%、小テストとミニレポート 20%、出席及び授業姿勢 20%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1.障がいとは何か（障がいがあるとは？障がい観の変化）2.障がいの捉え方（障がい児保育の歴史と現状）3.障がいの特性と支援方法（視覚障がい、聴覚障がい）4.障がいの特性と支援方法（言語障がい、肢体不自由）5.障がいの特性と支援方法（知的障がい）6.障がいの特性と支援方法（発達障がい）7.障がいのある子どもの発達と環境8.まとめ		
使用テキスト・参考文献		
使用テキスト 西村重稀・水田敏郎『新基本保育シリーズ17 障害児保育』中央法規 ・毎回、資料配付（各自でファイルし、毎回持参すること） ・参考文献は、必要に応じ授業時に提示		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年次	実習
科目名	授業回数	授業時間
保育実習 I (福祉施設)	10日間	80時間
担当者氏名	担当者実務経験	
藤田 留美	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
現場体験を通じて施設保育士として仕事をする上で必要な知識を学び求められる援助技術の内容を理解する。講義・演習で学んだ知識に基づいて利用児(者)との関わりを深め、利用児(者)が求めている社会福祉の需要に関する理解力・判断力を養う		
到達目標		
1. 実習指導者の指導を受けながら業務の進め方や記録の方法について学び、実習期間中、施設等において、チームの一員として活動する能力を養う。 2. 利用児(者)を理解し、そのニーズを把握する能力を高める。 3. 利用者や関係者への支援の実践を学び、技術を身につける。		
受講の心構え		
初めての施設実習ですが、職員や利用者・子どもたちから多くのことを学べるように素直に謙虚な姿勢で積極的に取り組みましょう。		
成績評価基準		
実習施設からの評価60%・実習日誌等の記録物、実習報告等評価40%を総合的に評価する。		
授業計画表		
実習先 ①児童養護施設 ②障がい者支援施設 ③福祉型障害児入所施設 ④児童発達支援センター等 実習期間 令和7年2月12日(水)～令和7年2月26日(水) ※期間内10日間80時間以上		
使用テキスト・参考文献		
本校作成『実習の手引き』		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年次	実習
科目名	授業回数	授業時間
保育実習Ⅰ（保育所）	10日間	80時間
担当者氏名	担当者実務経験	
谷内 智美	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
1. 保育所の役割、機能等を実際の現場で体験を通して理解する。 2. 既習の教科全体の知識・技術等の課題を明確にする。 3. 次年度に向けての必要な知識・技術等の課題を明確にする。		
到達目標		
1. 実習園について理解する。 2. 保育所の一日の流れを保育に参加する中で理解する。 3. 保育士や子どもとの関わりを通して、乳幼児を理解する。 4. 生活や遊びの一部を担当し、保育技術を習得する。 5. 安全な環境を確保するにあたっての配慮について学ぶ。		
受講の心構え		
入学して初めての実習です。実際に子どもに触れ、現場を知ることができる機会を大切に、前向きに学んでください。		
成績評価基準		
実習施設からの評価70%・実習日誌等の記録物、実習報告等評価30%を総合的に評価する。		
授業計画表		
〔実習先〕 札幌市内及び札幌市内近郊保育所 〔実習期間〕 令和6年12月2日(月)～令和6年12月13日(金) 【期間内で10日間】		
使用テキスト・参考文献		
・実習の手引き ・その他必要な資料		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
保育実習対策 I (福祉施設)・保育実習指導 I (福祉施設)	16回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
藤田 留美	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
1. 体験実習の重要性を理解し、学校で学んだ知識・技術を具体的に実践場面で活かすための態度や姿勢を身につけ、実習準備を行う。 2. 実習における実践学習をフィードバックし、その後の学習につなげるためのまとめを行う。		
到達目標		
1. 実習の目的を理解し、実習課題を明確にする。 2. 実習施設について理解を深める。 3. 実習現場における記録の書き方を理解する。 4. 実習現場における体験をまとめ、報告する		
受講の心構え		
何もわからないところからスタートします。積極的に授業に参加し障がいの理解、施設理解につなげ、実習に向けての準備をする。実習後はしっかりと振り返りを行い自分の課題を明確にする。		
成績評価基準		
課題の提出状況、報告内容等で総合的に評価する。		
授業計画表		
1. 実習の意義・概要の説明。施設種別の理解 2. 資料配布・実習先希望調査 3. 実習施設の理解① 児童養護施設・児童発達支援センター 4. 実習施設の理解② 障がい者支援施設 5. 実習目標作成① 6. 実習目標作成② 7. 実習目標作成③ 8. 事前訪問について 9. 事前訪問 10. 実習記録の書き方 11. 2年生との交流会 12. 実習に向かうにあつたてのマナー指導 13. 事後指導 実習報告書の作成 14. 実習報告会準備 15・16. 実習報告会 ※保育実習指導 I (福祉施設)8回・保育実習対策 I (福祉施設)8回を合わせて実習事前事後指導とする。		
使用テキスト・参考文献		
愛知県保育実習連絡協議会「福祉施設実習」編集委員会『保育士を目指す人の福祉施設実習』みらい 社会福祉法人大阪ボランティア協会編集『福祉小六法』中央法規 東京大学大学院教育学研究科付属発達保育実践政策学センター『保育学用語辞典』中央法規		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
保育実習対策Ⅰ（保育所）保育実習指導Ⅰ（保育所）	16回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
谷内 智美	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
1. 体験実習の重要性を理解し、学校で学んだ知識技術を具体的に実践場面で活かすための態度や姿勢を理解し、実習準備を行う。 2. 実習の振り返りを通して、今後の学習につなげ、自己課題を明確にする。 ※保育所対策Ⅰ（8時間）と保育実習指導Ⅰ（8時間）を併せて行うこととする。		
到達目標		
1. 実習の目的を理解し、実習課題を明確にする。 2. 保育所における計画や日誌の記述方法を身につける。 3. 実習生としての心構えを習得すると同時に、現場で求められるマナーや知識を得る。 4. 実習現場における体験をまとめ、報告する。		
受講の心構え		
現場で学ぶことのできる貴重な機会です。それに向けて基本的な知識を身につけていきます。課題も多くありますので、先の見通しを持ちながら積極的に参加しましょう。		
成績評価基準		
課題の提出状況、報告内容等で総合的に評価する。		
授業計画表		
1, 実習の意義・目的・概要の説明／実習の手引きについて 2, 実習の手引きについて／保育所の役割・機能の理解 3, 夏休みの活動について／日誌の書き方（時系列） 4, 事前訪問について 5, 現職の方からの講話・交流 6, 実習園の理解 7, 事前訪問 8, 実習目標について 9, 実習日誌の書き方① 10, 事前集中指導①実習日誌の書き方について② 11, 事前集中指導②チェックリスト 12, 事前集中指導③諸注意 13, 事後集中指導①報告会準備 14, 事後集中指導②報告会準備 15・16, 実習報告会①②		
使用テキスト・参考文献		
<ul style="list-style-type: none"> ・フレーベル館『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』 ・実習の手引き 毎回持参してください ・その他プリント配付 		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
こどもとリズム表現Ⅱ	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
房田 里枝	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
<ol style="list-style-type: none">1. 卒業研究のオープニングスタッフの役割を担い、表現する力を養い発表に繋げる。2. 保育者の役割を理解し、計画性をもちながら行事を作り上げていく過程を学んでいく。		
到達目標		
授業、実習を通して学んだ技術（想像力・表現力）を身につけるとともに、アイデアを出し合いながら全体で作り上げることに達成感を味わう。		
受講の心構え		
<ol style="list-style-type: none">1. 自発性を引き出し、またグループ内での協調性を大切にし、目的意識を持って授業に臨む。2. 授業や実習の経験で学んだ知識を引き伸ばしながら、新しい事に挑戦してみようという気持ちを持つ。		
成績評価基準		
取り組み段階から最終日までの状況を総合的に評価する。		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1. オリエンテーション（2年生で行なう卒業研究のオープニングスタッフについて）2. リーダーを決めて、題材の案を出す。スケジュールを組み、発表までの見通しを立てる。3. ダンスや楽器など、担当を決めてそれぞれのグループで動いていく。4. グループごとの動きと情報共有。5. グループごとの動きと情報共有。6. 実際の会場で行ない、全体を通して合わせる。課題の見直しと改善。7. 発表の完成。課題の見直しと改善。8. 2年生との総合練習		
使用テキスト・参考文献		
小林美実『こどものうた200』チャイルド本社 小林美実『続こどものうた200』チャイルド本社		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
保育制作 I	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
谷内 智美	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
1.保育教材の目的やねらいを理解する。 2.保育教材を作成するにあたって基本的な技術や知識を習得し、制作方法を身に付けていく。 3.完成品をどのように表現、応用、展開するかを子どもの姿を想像しながら計画し実践する。		
到達目標		
・保育教材として使用される「エプロンシアター」「ペープサート」「パネルシアター」、実習で使用する「フェルトネーム」を作成する。 ・作成のための技術や、演じるために必要な演技力、応用力、展開力を身に付ける。		
受講の心構え		
作品を制作するにあたって、準備は各自で行います。計画性を持ち、不足のないよう事前に用意しましょう。また、提出期限厳守をお願いします。子どもの前で演じること、子どもが楽しむ姿を考えながら楽しく意欲的に授業に参加しましょう。		
成績評価基準		
制作の計画性や取り組み方、制作物の内容、提出状況で総合的に評価します。		
授業計画表		
1 オリエンテーション・授業計画／フェルトネームについて・デザイン決め 2 フェルトネーム作成 3 フェルトネーム作成・パネルシアターについて 4 パネルシアター制作① 5 パネルシアター制作② 6 パネルシアター制作③ 7 パネルシアター制作④・エプロンシアターについて 8 エプロンシアター制作① 9 エプロンシアター制作② 10 エプロンシアター制作③ 11 エプロンシアター制作④ペープサートについて 12 ペープサート制作① 13 ペープサート制作② 14 実践発表会① 15 実践発表会②、授業のまとめ		
使用テキスト・参考文献		
中谷真弓『エプロンシアター型紙集』乳幼児教育研究所 インターネットや市販の台本集、図書室の台本集なども活用していきましょう。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士・幼稚園教諭コース	1年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
教育実習対策 I	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
井口 美和	授業内容にかかわる実務に幼稚園教諭として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
1 教育実習の意義や流れを理解し、実習への意欲・期待を高める。 2 幼稚園教諭・保育教諭として必要な資質を高め、実習に向かう目標や課題を明確にする。		
到達目標		
1 幼稚園・認定こども園の機能や保育を理解し、幼児理解を深める。 2 指導計画立案や日誌作成を実践し、保育サイクルを理解する。 3 幼稚園見学・見学記録等を通して保育現場の理解を深める。		
受講の心構え		
幼児との生活を楽しみに、幼稚園・認定こども園について学び、実習に臨む意欲を高めましょう。たくさん悩み苦しんでください、その先には幼児の笑顔が待っています。		
成績評価基準		
受講態度 30% 保育実践参加態度 40% 提出物 30%		
授業計画表		
1 実習の意義・目的・概要 幼稚園・認定こども園の理解 1 (DVD視聴)		
2 幼稚園・認定こども園の理解 2 (幼稚園教育要領等について) 実習の概要		
3 幼児理解(DVD視聴) 幼稚園の保育とは(幼児理解・教育課程・指導案) ・手遊び等の実践		
4 幼稚園・認定こども園見学事前指導 (指導案・保育日誌)・手遊び等の実践		
5 幼稚園・認定こども園見学 (模擬保育又はDVD 視聴)		
6 幼稚園・認定こども園見学 (保育振り返り・DVD カンファレンス)		
7 幼稚園・認定こども園見学 (保育振り返り・DVD カンファレンス・日誌記入)		
8 幼稚園・認定こども園見学の振り返り・ まとめ		
使用テキスト・参考文献		
赤澤誠一 『幼稚園教育実習事前・事後指導』豊岡短期大学 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』『フレーベル館 内閣府他 『幼保連携型教育・保育要領解説』フレーベル館		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年次	実習
科目名	授業回数	授業時間
こどもと音楽表現Ⅴ	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
折笠 美穂・田中 智子	-	
科目のねらい	保育の中には音楽を使った活動があります。表現活動をするためには器楽演奏やピアノの弾き歌いなどの技術が必要となります。ピアノ実技を中心に音楽に必要な基本的な知識と技術を学びます。	
到達目標	ピアノを弾くために必要な楽譜を読む基本的な知識を学ぶ。あいさつのうた3曲（おはよう・おべんとう・おかえりのうた）を中心にこどものうたを弾けるようになる。歌詞を覚えて多くの曲を歌えるようになる。レパートリーを使い目標や進度を明確にする。	
受講の心構え	ピアノの技術を学ぶ授業です。少しの時間でもいいので毎日ピアノを弾く習慣を身につけてください。爪は伸ばしていると危険なので短く切ってください。伸びている場合は授業の前に切ってもらいます。全員があいさつの3曲を弾けるように練習してください。	
成績評価基準	実技試験・授業態度（練習状況などを含めた総合評価）実技試験80%・授業態度20%	
授業計画表	<ol style="list-style-type: none">1. ピアノ実技の習得（あいさつの3曲を中心に季節の曲など現場でよく歌われる曲）2. ピアノ実技の習得（あいさつの3曲を中心に季節の曲など現場でよく歌われる曲）3. ピアノ実技の習得（あいさつの3曲を中心に季節の曲など現場でよく歌われる曲）4. ピアノ実技の習得（あいさつの3曲を中心に季節の曲など現場でよく歌われる曲）5. ピアノ実技の習得（あいさつの3曲を中心に季節の曲など現場でよく歌われる曲）6. ピアノ実技の習得（あいさつの3曲を中心に季節の曲など現場でよく歌われる曲）7. ピアノ実技の習得（あいさつの3曲を中心に季節の曲など現場でよく歌われる曲）8. まとめ 授業で取り組んできた成果を発表	
使用テキスト・参考文献	小林美実編『こどものうた200』『続こどものうた200』チャイルド本社 必要に応じてプリントを配付	

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
手話 I	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
河村 明子	-	
科目のねらい		
聴覚障害者の言語である「手話」の基本を学びます。 外見では分かりにくい聴覚障害についての理解を深めながら、実際に聴覚障害者と接した時に適切な対応ができ、且つ積極的なコミュニケーションをとるための方法を学びます。		
到達目標		
1. 聴覚障害者への配慮と対応方法を学び、基本的な手話を習得・実践できる。 2. 聴覚障害者のコミュニケーション手段の1つである手話という言語を基礎から学び、初歩的な会話ができる。 3. 聴覚障害者の社会生活を理解できる。		
受講の心構え		
聴覚障害者が使う『手話』は目で見える言葉です。 手話を習得するために、講師の手話をよく見て表現しましょう。積極的に手話でコミュニケーションを取り、分からないことはすぐにたずねて理解を深めましょう。		
成績評価基準		
読み取り、レポート80% 授業姿勢20%を総合評価する		
授業計画表		
1. ガイダンス 聴覚障害者の基礎知識「聴覚障害者・コミュニケーションについて」 伝えあってみましょう「身振りで伝える」		
2. 手話の基礎知識「手話について」 自己紹介をしましょう①「挨拶、名前、指文字、家族」		
3. DVD鑑賞「聴覚障害者の生活を考える」 自己紹介をしましょう②「家族」		
4. 自己紹介をしましょう③「数字、趣味」		
5. 聴覚障害者の基礎知識II「聴覚障害者の生活について」 自己紹介をしましょう④「仕事」		
6. たずねあってみましょう「時に関する手話」		
7. 会話してみましよう「まとめ」		
8. まとめ		
使用テキスト・参考文献		
「さっぽろの手話」公益社団法人札幌聴覚障害者協会 参考資料 「わたしたちの手話学習辞典I」（一般財団法人全日本ろうあ連盟出版局）		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
応対論 I	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
三品 あおい	-	
科目のねらい		
この科目では社会人としての信頼の土台であるマナーを身につける。 実習に入った際に実践できる、気持ちの良い挨拶・表情・身だしなみや敬語・電話応対等を身につける。		
到達目標		
「挨拶」「身だしなみ」「言葉づかい（敬語）」と言った、社会人として必須・基本的なことを日々の学校生活から実践する		
受講の心構え		
応対論は社会に出る前の練習の場であるので、授業で学んだことを積極的に実践して習慣にしましょう。挨拶や敬語などマナーは他の教科や日常生活でも身につきます。欠席した場合は、次の授業で支障がないように、事前に他の学生のノートやテキストで確認しましょう。		
成績評価基準		
筆記試験25%・実技試験25%・平常点（授業での取り組み50%）の総合評価		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">円滑な人間関係を築くためのマナー・ヒトの第一印象について考える好感を持たれる保育者になるための基本マナー（挨拶・お辞儀等）正しい言葉づかい（敬語等）保育者に求められるマナーとは（守秘義務・SNS等）保護者とより良い関係を築くためには（来客応対・訪問・電話応対等）保育者の職場でのマナー（報連相・整理整頓等）社会で役立つマナー（冠婚葬祭・食事のマナー・お礼状等）まとめ・試験		
使用テキスト・参考文献		
テキスト 「マナー&プロトコルの基礎知識」NPO法人 日本マナープロトコル協会		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
国語総合演習 I	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
浦田 日出雄		
科目のねらい		
自分が書く文字について振り返り、正確で読みやすい工夫をする。また、いろいろな様式の文章に触れ、目的に合った文章を理解したり、書いたりする。		
到達目標		
字形を整え、丁寧に文字を書くことが出来る。語彙を増やし、使用することができる。いろいろな様式の文章を書くことができる。		
受講の心構え		
伝えたいことを話したり、書いたり、相手の話を聞いたりしながら、豊かな表現を目指し取り組んでほしい。		
成績評価基準		
まとめの試験 60% プリント提出 20% 授業姿勢 20%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1. ひらがな、カタカナ、よく使う字について練習する。愛読書について。2. 個人票の様式を知り、作成する。3. 封筒の宛名、差出人の住所、名前をバランス良く書く。礼状の書き方。4. 同音異義語などについて理解し、練習する。目的に合った文章を書く。5. 同訓異義語などについて理解し、練習する。目的に合った文章を書く。6. 慣用句、専門用語の正しい理解と使い方を知る。7. 四字熟語が読めて、意味を知る。ことわざについて知る。8. ことわざについて知る。まとめの試験をする。		
使用テキスト・参考文献		
必要に応じてプリントを配付する。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
就職ガイダンス I	2回	4時間
担当者氏名	担当者実務経験	
小野 千晴	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
自分の将来を創造する 卒業生の就職活動体験などの見聞を通じ、自身の進路選択を想像する。 希望する進路の実現のために、自分自身に不足しているものは何か知り、内定に向けた取り組みが実践できる。		
到達目標		
1. 進路（希望施設・種別・地域など）について考える。 2. 卒業生の就職活動体験を参考に、就職に対する主体的意欲を持つ。 3. 希望進路実現に向けた、計画的な取り組み、具体的行動を考える。		
受講の心構え		
どこで働きたいかイメージすることで、いつ・どこで・何を取り組むのか明確にして、希望進路の実現を目指しましょう。		
成績評価基準		
受講をもって履修とする。		
授業計画表		
1 就職ガイダンス オリエンテーション 進路希望調査と就職に関する疑問調査 2 就職座談会 ～ 卒業生の体験談をもとに自分の将来をイメージする		
使用テキスト・参考文献		
学校資料配付		